

# 28P-am329

金城学院大学薬学部における PBL および CBL の実施とその評価

○小幡 由紀<sup>1</sup>, 網岡 克雄<sup>1</sup>, 安藤 裕明<sup>1</sup>, 小崎 康子<sup>1</sup>, 矢野 玲子<sup>1</sup>, 永津 明人<sup>1</sup>, 森 雅美<sup>1</sup>(<sup>1</sup>金城学院大薬)

【目的】金城学院大学薬学部では、これまで問題解決型学習として 1, 2 年生を対象に PBL (Problem-based Learning) を実施してきた。今年度は、これに加えて、4 年生を対象としたシナリオ解決型学習の CBL (Case-based Learning) を新たに実施した。今回は、4 年生前期に実施した、基礎薬学・衛生薬学分野に関するシナリオ解決型学習 CBL (1) の実施内容について紹介する。また、PBL および CBL (1) に関するアンケート調査を行ったので、その結果についても報告する。

【方法】CBL (1) では、1 学年 (4 年生約 150 名) を 28 グループ (1 グループ 5~6 名) に分け、基礎薬学・衛生薬学分野に関するシナリオについて、シナリオ解決型学習を実施した。グループワーク終了後に、全体での発表会を行い、自分のグループも含めた各発表グループの発表内容の評価も経験させた。また、発表会終了後に、マーク式のミニテスト (5 択式 20 問) を実施し、各個人に、知識の定着を確認させた。CBL (1) 終了後に、無記名式で PBL および CBL (1) に関するアンケート調査を行い、結果を解析した。

【結果および考察】金城学院大学薬学部の PBL では、2 年生が 1 年生のグループワークをサポートするという屋根瓦方式の教育手法を実施しており、1 年生では主にグループワークの進め方を学び、2 年生ではタスクフォース役を経験する。アンケート調査では、半数以上の学生が、「CBL (1) では PBL で学んだディスカッションや役割分担 (64.4%)、調査方法 (61.9%)、レジメ作成方法 (77.1%)、発表方法 (65.3%) を活用できた」と回答し、また、「PBL や CBL (1) に積極的に参加した」と回答した学生の割合は、70.3%であった。低学年時における PBL の経験は、その後のシナリオ解決型学習に良い影響を与えていることがわかった。このような低学年時の PBL およびそれに続く CBL (1) は、学生に、よりスムーズに問題解決能力を身につけさせる教育手法として有益であると考えられた。